

## 6 釧路・根室連携地域（釧路総合振興局、根室振興局）

- ① くしろ木造畜舎促進プロジェクトチームの設置（釧路）
- ② 2022 木育・森づくりフェアの開催（釧路）
- ③ 森林・林業に関する出前講座等の開催（釧路）
- ④ 林業の担い手確保に向けた取組（根室）
- ⑤ 人材の育成に向けた取組（根室）



### ① くしろ木造畜舎促進プロジェクトチームの設置（釧路）

釧路総合振興局では、トドマツ等の人工林資源が利用期を迎えていることから、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、地域材の利用拡大を促進していくため、「くしろ木造畜舎促進プロジェクトチーム」を設置し、令和4年7月に第1回会議を開催しました。

令和4年度から令和6年度の3年間に渡って、畜舎建築特例法に係る情報収集、酪農家へのアンケート調査やライフサイクルに関する木材の優位性調査、二酸化炭素削減や木造畜舎の炭素固定量算出による環境負荷の影響調査、セミナーや木造畜舎見学会等の普及啓発を行っていきます。

今後、地域の関係機関と連携して活動を進め、木造畜舎の普及を通して地域材の利用拡大を進めていきます。



くしろ木造畜舎促進  
プロジェクトチーム  
第1回会議

### ② 2022 木育・森づくりフェアの開催（釧路）

釧路総合振興局・根室振興局では、木育の取組を広く地域住民に理解してもらうため、令和4年11月に、釧路市、釧路町村会、くしろ森と緑の会、北海道森林管理局との共催で、3年ぶりとなる木育・森づくりフェアをイオンモール釧路昭和サンコート広場で開催しました。

地域の植樹祭などの紹介パネルや地域材を活用した木製品の展示、木育マイスター道東支部による木育広場（木工作体験や木製遊具体験）、トイチェーンソーなどで記念撮影ができる森のお仕事コーナー、各種木工作体験コーナーを設置し、2日間で341名の来場者に様々な木育を体験していただきました。

来場者からは「木とふれあうことの良さを感じることができた」、「心が温まった」などの感想が聞かれ、木育に対する一定の理解が得られていることから、今後も各市町村や木育マイスターなどとの関係を一層深めながら、本イベントを継続して実施していきます。



パネル・木製品展示



木育広場  
(木育マイスター道東支部)



ミニツリーづくり

## コラム 第1回エステークリアフォレストの森 植樹会・木育教室（釧路総合振興局）

エステー（株）・（株）北都・釧路総合振興局の3者は、森林整備や木育の取組により、地域社会の振興に寄与するとともに、森林整備等の理解促進を通じて、地球温暖化の防止に貢献することを目的に、令和4年7月に「ほっかいどう企業の森林づくり」協定を締結しました。

協定では、「エステークリアフォレストの森」と命名された厚岸町の道有林釧路管理区の1.74haにおいて、令和13年度までの10年間でトドマツ林整備、令和8年度までの5年間で地元小学生等を対象とした木育教室を実施する計画となっており、令和4年度は10月に植樹会・木育教室を開催しました。

植樹会には、協定3者の関係者のほか厚岸町の太田小学校5～6年生の児童など総勢約50名が参加し、トドマツ苗木300本を植樹したほか、記念植樹や「エステークリアフォレストの森」の看板除幕なども実施し、充実した内容となりました。

木育教室では、エステー（株）がトドマツの枝葉を活用した取組に関する話や、最新のVMSD（減圧マイクロ波蒸気蒸留）コンパクト抽出装置によるトドマツ精油抽出のデモンストレーションを実施したほか、釧路市で地元材を活用した鉛筆づくりを行っている「まちまちえんぴつ」の指導により、トドマツの香りがする鉛筆づくりも行われ、参加者から「自分だけの鉛筆を作ることができて良かった」などの声が聞かれました。

今後も3者の連携を深めながら、協定に基づいた取組を進めていきます。



小学生による植樹



木育教室

### ③ 森林・林業に関する出前講座等の開催（釧路）

釧路総合振興局では、管内の林業・木材産業の担い手を育成・確保するため、森林整備や木材利用に関する普及啓発や、事業体の支援に取り組んでいます。

令和4年度は、高校生を対象とした林業の就業体験や、小学校から大学まで計7校（延べ約370名）の児童・生徒・学生等を対象とした出前講座を市町村や森林組合等と連携して実施し、森林・林業への関心や知識の向上を図りました。

令和4年10月に初めて出前講座を実施した弟子屈町的美留和（びるわ）小学校（3～6年生、全児童6名）では、「人工林と天然林のちがいをさがそう」をテーマとして、隣接する人工林・天然林内を児童達が自由に散策し、木の種類や大きさ、地面の状態の違い等を観察しました。その後学校に戻り、児童それぞれが見つけた人工林と天然林の違いについての発表が行われ、児童の鋭い観察眼に、指導した森林室職員も驚くほどの内容もありました。先生からは「大変良い取組であり、同校での継続的な開催のほか、他の小学校でもこのような活動を是非行って欲しい」との評価をいただきました。

今後も教育機関等と連携して継続的に出前講座を実施するなど、若い世代から森林・林業への関心を高め、釧路地域の林業・木材産業の担い手育成・確保に努めます。



美留和小学校での出前講座  
（弟子屈町）

**コラム 未整備森林の解消に向けた取組（釧路総合振興局）**

釧路市音別町では、平成30年に創設された森林経営管理制度に基づき、手入れの行き届いていない森林の所有者を対象に、今後の森林の経営管理に関する意向調査を実施しており、令和元年から2年度にかけて行った調査では、対象者32名(269ha)の内、22名(242ha)から回答がありました。

未整備森林の解消に向けた検討を行うため、市、森林組合、森林室で「意向調査ワーキンググループ」を設置し、調査結果を踏まえながら、森林経営計画に基づく森林整備を第一に考え、衛星写真による林分判読や既存路網の有無等を参考に、個別説明を行う対象森林の選定を行いました。その後、現地調査を実施し、間伐又は植林など林分に応じた施業方法について検討するとともに、検討結果を所有者に分かりやすく提案し実行してもらうため、林分診断書や事業実施に関する概算収支見積等を作成し個別説明を行い、結果2名の所有者から植林5ha、保育間伐13haの実施について承諾を得ることができました。

令和5年度も引き続き、関係機関と連携しながら、現地調査や個別説明等を実施し、未整備森林の解消に向けた取組を進めていきます。



ワーキンググループ会議



対象森林現地調査



森林所有者個別説明

**④ 林業の担い手確保に向けた取組（根室）**

根室振興局では、平成30年度に管内の林業事業体、市町、教育機関など関係者が参画する「根室地域林業担い手確保推進協議会」を設置し、構成員が連携しながら林業の担い手確保に向けた取組を進めています。

令和4年度は、標津高等学校及び中標津農業高等学校の生徒を対象に森林・林業出前講座を実施し、林業の仕事の魅力やSDGsとの関わりについて発信したほか、北森カレッジが行う地域見学実習やインターンシップの受入を行いました。

また、幼少期から森林や林業・木材産業を知り、興味を持ってもらうため、森林・林業・木材産業に関するカルタを制作しました。制作したカルタは、今後、希望する幼稚園や保育園、小学校などへ配付するほか、地域の木育イベントなどで活用していくこととしています。



森林・林業出前講座



北森カレッジ地域見学実習



木育カルタの制作

## ⑤ 人材の育成に向けた取組（根室）

根室振興局では、市町村森林整備計画に基づく適切な森林管理を担う人材を育成するため、市町職員等を対象に「ねむろ森林づくり交流会」を行っています。令和4年度は根釧東部森林管理署と根室振興局の共催により開催し、管内市町職員をはじめ、森林組合や林業事業体、指導林家、青年林業士等40名の参加がありました。

現地研修では、根室振興局が指導林家の協力のもと、林分調査の方法等について説明を行ったのち、実務経験の浅い職員に標準地の設定から輪尺・直径巻尺、電子器具を用いた測樹までの一連の作業を体験してもらいました。また、根釧東部森林管理署からは、新技術として、空間情報を3次元データとして取得できる森林3次元計測システム「アウル（OWL）」の紹介と実演を行いました。

室内研修では、根室振興局が（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場で開発された「人工林収穫予測ソフト」を使用し、現地で得られた林分データを元に間伐設計や収穫予測の方法について説明を行いました。また、根釧東部森林管理署からは、現地研修でのアウル（OWL）の実演で取得した計測データを、専用ソフトである「OWL Manager」を使って解析し、立木位置図や3次元立木マップ等を作成しました。

今回の交流会を通じて、参加者は、従来の林分調査の方法から、発展的な3次元計測システムを用いた方法など、新しい知識や技術を得ることが出来ました。適切な森林管理を行っていくには幅広い林業知識や技術が欠かせないことから、根室振興局では、今後も根釧東部森林管理署等と連携を図り、管内の市町職員等に対し、林業の知識・技術の向上を図る取組を進めていきます。



林分調査の実施



森林3次元計測システムの実演



3次元立木マップ